

地域密着型サービス（ Workshop RNC ）運営推進会議 【第 4 回】			
日 時	2024 年 7 月 25 日（木） 16：00～17：00		場 所 Workshop RNC
利用者ご家族	地域代表（民生委員）	地域包括支援センター	事業所管理者
市職員	地域医療機関者	事業所職員	事業所職員
■ 議題		■ 議事内容	
1．活動状況 ○登録者数（市内・市外・合計） ○要介護度別利用者状況 ○活動内容 2．活動状況の評価 3．出席者からの要望・助言 4．意見交換		1．2024 年 7 月現在 ◇成人登録者数 総数 25 名 武蔵野市 13 名 三鷹市 10 名 西東京市 1 名 小金井市 1 名 ◇小児登録者数 総数 9 名 （内、医療的ケア児 4 名、その他児童 5 名） 要支援 1： 3 名 要支援 2： 1 名 要介護 1：14 名 要介護 2： 6 名 要介護 3： 0 名 要介護 4： 1 名 要介護 5： 0 名 （内、認知症 11 名、高次機能障害 3 名） （男性 5 名 約 20％） ◇活動内容 ・弁当販売 ・調理（昼食作り、メニュー立案） ・ワークショップ（水彩画、料理教室、お菓子教室、手話教室など） ・子どもの学習支援 ① 利用者が利用児の宿題を見る ② 一緒に文字カードやかるたなどで遊ぶ ・多世代交流 ① 一緒に遊ぶ（カードゲーム、将棋、オセロ、キャッチボール、ジェンガなど） ② 一緒におやつ作り ③ 昔遊びの伝承（けん玉、コマ回しなど） ④ 行事企画（スイカ割り、夏祭り、ハロウィン、クリスマス会、お花見など） ・その他 有償ボランティア受入れ（現在 4 名登録） 片付け、掃除、利用者様の話を聞く傾聴などに従事	

2.

- ・ 前回の運営推進会議では、地域密着型ということで地域の方に開かれた事業所でありたいが、地域の方への認知度が低く、自動ドアを開けてお弁当の販売をする中で、お客さんにデイサービスを知っていただく機会が増えたとの報告をさせていただいた。

その後、三鷹市の地域包括支援センターからのご紹介で「ほのぼのネット活動」の会合にお弁当の配達をさせていただき、店先にイベントやワークショップの開催を告知するなど、広く地域へのアナウンスを継続しておこなった。

- ・ 地域のデイサービスをご利用されていたが、「もっと活動的に何かを行いたい」、「人のために何かをしたい」という方が移られることも多い。
- ・ Workshopに通うまでは不安も大きかったが、通い始めたら週1回利用でも生活に張りが出てきたとのこと意見もいただいている。
楽しいだけではなく、「仕事をする」「人のために役に立ちたい」という感覚も持って参加されている方もいらっしゃることはWorkshopの運営意義にも沿っているように感じている。

- ・ 認定調査で要介護度が下がった方もいる。
自宅にこもることが多かった方がWorkshopに週2日通い始めて、人との交流や調理作業を通して元気を取り戻したという嬉しいお話もいただけた。

- ・ 障害者施設の就労継続支援から介護保険サービスへの移行として利用希望の方のお問い合わせは依然として多い。

- ・ 認知症が進行して、調理作業がままならなくなった際に次を選択する方もいれば、引き続きご利用いただいている方もいる。

Workshopに通い続けたいと考えていらっしゃる方々にどのような支援やサービスが提供できるのかを今後も模索しながら対応していきたい。

3

- ・ workshopRNCはどういった経緯でできたのか。

→訪問看護ステーションから始まり、訪問する中で、高齢者が外に出るためのきっかけとして、また、医療的な処置が必要な子どもにとっての社会とのつながりを持つための居場所がないことに気づき、子どもたちの受け皿として設立された。受け皿がない方に対する居場所。

- ・ workshopRNCとして、どうなっていきたいかの方向性を知りたい。お手伝いできることがあればしたい。

→大きな施設ではないため、沢山の受け入れが叶わない現状はあるが、午前中は高齢者の方々とお弁当を作って販売して、午後は放課後等デイサービスとの共生型として18歳までの子どもを受け入れている。

今後、子どもたちが18歳になれば、ここを離れ次の入所施設を探す必要が出てくる。新たな場所を探すことや、新しい場所になれるのにも時間がかかるだろうと考えると、WorkShopRNCとしては、次にどのように支援が必要で、何ができるかを模索している。

- ・家族のケアの必要性についてどのように考えているか。

→チーム支援を強化し、関係機関との連携を図り支援していく。家族が自宅での介護が難しく、施設に入るために退所してしまう人がいることについては、本人と家族に対してできる限りのことを支援していきたい。

- ・室内は靴下ではなく、ルームシューズにしてみてもどうか。

→以前はスリッパを使用していた。スリッパが沢山並んでいると危ないためルームソックスに変更したことを説明した。足の痛みについても他の方法や工夫できることを今後検討する。一人だけルームシューズを履く利用者の気持ちを考慮して検討する必要がある。

- ・本人も気持ちよく過ごしていて感謝している。できるだけ長くここに通いたいと話している。

4.

- ・地域の方への認知度を高める為にどうするか。

→引き続き、お弁当を買いに来てくれたお客様に声掛けして、イベントやワークショップの開催を告知するポスターを作成するなど工夫していきたい。

- ・地域で困っている人、悩みを抱えている人に対して何ができるか。

→課題と認識し、検討していく必要がある。居場所として知ってもらうことに努める。